

水から学ぶ

福井県

勝山市立勝山北部中学校

三年

広田

真里菜

私の家は川のそばに建っている。弟をつれて、毎日川に遊びに行くこともあった。いつも川には、美しくきれいな水が流れていた。小さな魚が群れでよく泳いでいて、それを眺めるのが私は好きだった。

そんな美しい川が姿を変えたのは、去年の夏だった。朝起きて外を見ると、川の水の量がいつもの倍近くあった。でも、雨も降っていたし、前にも同じくらいの量になったことはあったので、多いなあくらいにしか思っていなかった。おかしいと感じたのはそのすぐあとだった。まだ朝のはやい時間に、仕事のはずの母が学校に私を迎えに来た。

「川があふれたらしい。家が危ない。」

母はそう言った。家に帰ろうとしたが遅く、家は川にのみこまれていた。どこが川でどこが道かなんてわからなかった。美しく透き通っていたはずの川の水は、茶色く、濁っていた。雨はいつまでも降り、川は激しく暴れ狂う。いつも見ていた川の恐ろしい姿に、私はふるえた。家が水につかったことで、蛇口をひねっても水は出なくなり、トイレも流れなくなった。川が猛威をふるったのはほんの一瞬でも、私たちの地域は大きな被害をうけた。私の中には「水は怖い、川は危ない」という印象がしみあがっていた。

水害から何ヶ月かたっても水に対する恐怖はぬぐいきれなかった。川には近づかなくなり、雨も嫌いになった。いつまでもこのままでいいのだろうか。そんな思いが頭に浮かんだ。どんなに願おうと雨は降るし、川をどこかに移動させることはできない。自分から水について知り、共に生きていくしかないということに気がついた。それから、水について調べることを決めた。

まずは、水の良いところを知ろう。そう思って調べ、私はあるものを見つけた。それは「水の恵みカード」というものだ。私たちが口にしていく農産物は、水の恵みがなければ育たない。このカードでは、農産物

を通して水の大切さやありがたさを知ることができる。私はこのカードのおかげで、水の新しい一面を知ることができた。

水についてたくさん調べていくうちに、この世界から水がなくなったらどうなるんだろうという疑問がうかんだ。水がなければ、お風呂にも入れないし、トイレも流れない。野菜も育たなくなり、人間だけでなくさまざまな動物の食べるものがなくなってしまう。その先に見えるのは、おそらく死だろう。水がなくなるといことは、私たちの命が危険にさらされているということなのかもしれない。

それでも人間は雨を嫌う。大切な水だとも言えるが、害であると思う人も多いのではないだろうか。でも、水がじゅうぶんに手に入らない国の人はどう思うだろう。何十キロも何百キロも歩かないと手に入らない水。それによつてうばわれる時間。そんな水が空から降ってきたら、恵みだと思うのだろうか。

水には良い一面も悪い一面もある。水は、私たちが食べるものを育ててくれる。たくさん産業が水によって成り立っているとも言える。でも時に水は、洪水として私たちの命や生活を脅かす。農作物や財産、時には命も一瞬にして流しさってしまう。生まれてから死ぬまで、私たちのそばにはいつも水がある。水と共に生きていく私たち。水から恩恵を受けるばかりで、私たちは水に何かできていくだろうか。水を傷つけていないだろうか。汚れた川、落ちていくごみをみてみぬふりでいいのだろうか。水について学び、知り、伝える。なんとかしたいというその勇氣を、行動にうつさなければ、なにも変わらない。水と共に生きていくうえで必要なことを、もう一度、考えてほしい。